今年を飛躍の年に

文具の「本質的な価値」再確認で新たな進化遂げる

長谷川　豊

2026年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界情勢は引き続き不確実性の高い一年でした。年始に発動された米トランプ政権による相互関税措置は、世界経済に広範な影響を与えました。また、一部地域における地政学的な緊張の継続は、国際的な秩序の揺らぎを明確にし、各国においてサプライチェーンの強靭化やエネルギー安全保障の強化が喫緊の課題となりました。同時に、気候変動問題への意識は一層高まり、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが加速しています。

このような国際的な激動の中、国内では初の女性首相として高市政権が発足し、政局の動向が大きな注目を集めました。景気面では、日経平均株価が史上初の5万円を突破するなど明るい兆しは見られたものの、長期化するインフレ、実質賃金の伸び悩み、そして少子高齢化という構造的な課題は依然として重くのしかかっています。

一方で、昨年開催された大阪・関西万博は、未来社会へのビジョンと技術革新の重要性を世界に強く印象づけました。日本の技術と文化を発信する絶好の機会となり、インバウンド市場の活況を牽引するなど大成功を収めました。しかし、私たちは同時にデジタルの「影」も目の当たりにしました。大手流通企業で発生した大規模なシステム障害やサイバー攻撃は、デジタル社会の利便性の裏側にある情報セキュリティの脆弱性、そしてサプライチェーンの「一瞬の停止」が企業活動に甚大な影響をもたらす現実を突きつけました。さらに、中国との政治的な緊張により渡航自粛の呼びかけがインバウンドにもすでに影響をもたらしています。

このような激動の時代において、日本の文具業界は、逆風下でも文具の「本質的な価値」を再確認し、新たな進化を遂げました。デジタル化に対し、「共存と補完」という視点で、手書きがもたらす心地良さや思考の整理といった価値を追求した高精度な筆記具やノートが再評価されました。また、「趣味」や「自己表現ツール」としての側面が強まり、ライフログやデコレーション用のシールなど、モノ（ツール）が持つ「パーソナルな情緒的価値」を提供する分野で文具が活躍の場を広げました。さらには、文具製造・販売の枠を超え、ライフスタイルや異業種との連携による多角化も各社で進展し、業界の領域自体が拡張する時代を迎えています。

このような変化の激しい環境に対応するため、東京文具工業連盟は、以下の事業を通じて会員各社が直面する課題解決と業界全体のレベルアップを図ってまいります。

1、文具の生産・貿易及び流通に関する調査研究事業

2、文具の生産者の資質向上に関する研究会・講演会事業

3、文具の普及啓蒙活動

4、関係官公庁及び関係団体との連絡・折衝に関する事業

これらの取り組みを関係団体とも緊密に協力しながら推進してまいります。

最後になりますが、文具業界の皆様にとって2026年が希望に満ちた、実り多い一年となりますよう心よりお祈り申し上げますとともに、東京文具工業連盟への更なるご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【一般社団法人東京文具工業連盟会長、ヤマト株式会社社長】

堅忍不抜の精神で

社会生活豊かにする使命全う

小川　晃弘

令和8年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、日頃から我が国の筆記具工業の発展のためにご尽力を賜っております会員各社様、および本工業会にご支援を頂いています業界団体様、ならびに各委員会・部会運営にご協力いただいている各社皆々様に厚く御礼申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、筆記具の市場動向に関しまして当工業会が集計している2025年第3四半期までの筆記具統計によりますと、出荷数量は軒並み前年割れとなっていますが、一方で出荷金額は油性ボールペン、シャープペンシル、鉛筆などは前年比横ばいか微減となっており、筆記具の販売単価が上昇しているものと考えられます。

これは我が国最大の強みである高度な筆記具の開発力を会員各社様が存分に発揮し、高品質・高付加価値の商品を世の中に送り出した結果の表れであり、この開発力こそが我が国筆記具業界の存在意義を示すものであり、今後の更なる筆記具市場拡大の原動力となるものです。

昨年の国内外政治経済情勢は、米国の関税政策を巡る混乱、国際的な分断、インフレ圧力の継続、また人手不足といった問題に直面し、厳しい経営環境が継続しました。デジタル化の進展や少子化の進行に加えこうした政治経済の不確実性により、筆記具のサプライチェーンや市場動向も大きな影響を受けました。

一方で教育のデジタル化一辺倒による学力低下への懸念などから筆記が脚光を浴びつつあり、デジタル化と相対した「書く」という行為がもたらす「脳の活性化」「思考の整理」「創造性の発揮」「コミュニケーション多様化」などの効能が唱えられ、その手段としての筆記具の存在価値は決して失われることはありません。

今年で当工業会は創立25周年、節目の年を迎えるにあたり当工業会の目的である「日本の筆記具業界の活性化と発展、及び国民生活の向上に寄与する」ことに堅忍（けんにん）不抜（ふばつ）の精神で取り組み、「書く」ことの効能を訴えながら我が国の強みである筆記具開発を推し進め、そして筆記具をとおして社会生活を豊かにするという使命を全うしてまいります。

より魅力的な筆記具を世の中にどんどん送り出し全世界で筆記具需要が拡大することで、文具業界および会員各社様が一層の発展を遂げることを心から祈念しつつ、本年も日本筆記具工業会に一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。【日本筆記具工業会会長、株式会社トンボ鉛筆会長】

社会の変化敏感に

環境に配慮した商品設計

宮本　彰

明けましておめでとうございます。

昨年は大阪・関西万博が開催され、国内外から多くの来場者を迎え、日本経済に明るい話題をもたらしました。当社も運営参加サプライヤーとして、アルコールディスペンサー「テッテ」を提供し、来場者の感染症予防に微力ながら貢献できたのではないかと考えております。

一方で、世界経済の変化や国内の物価高など、引き続き厳しい環境が続いています。文房具に限らずあらゆる業界で値上げせざるを得ない状況が続いており、当協会所属のメーカーにおいても多くの商品で価格改定を余儀なくされました。

また、日本の文具・事務用品市場を見ると、ペーパーレス化がますます進み、市場全体としては縮小傾向であることは否めません。しかし、出社とリモートワークのハイブリッド勤務が定着し、資料を持ち歩く需要が高まったり、閲覧シーンが多様化したりすることで、価格重視の〝コスパ〟だけではなく、限られた空間を効率的に活用する〝スペパ〟（スペースパフォーマンス）、短い時間で効果を最大化する〝タイパ〟（タイムパフォーマンス）といったテーマの文房具も注目されました。

ファイル関連では、依然として盛り上がる推し活需要のほか、シール帳づくりのブームが再燃し、子どもから大人まで、ファイルに好みのシールを楽しそうにコレクションする様子も見られました。

また、訪日客数が過去最高水準を記録したことで、インバウンド需要も飛躍的に伸長しました。日本の機能的で高品質な文房具を求めて、多くの外国人観光客が文具店をにぎわせています。

厳しい状況の中にもこうした明るい兆しもあり、社会の変化を敏感にとらえて商品・サービスに活かしていくことが、今後ますます重要になると考えています。皆さまと共に、日本の文房具およびファイル・バインダー類の新たな可能性を模索してまいりたいと思います。

最後に、本年よりプラスチック資源循環法を背景とした、環境配慮設計が特に優れた製品の設計認定制度が始まります。

海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題などを契機として、国内におけるプラスチック資源循環の促進等の重要性はますます高まっており、環境に配慮した商品設計を推進することは、当協会の重要な責務であると考えています。

持続可能な社会を実現し、次世代に豊かな環境を引き継いでいくためにも、業界一丸となって取り組んでまいりましょう。【日本ファイルバインダー協会会長、株式会社キングジム会長】

HAGURUMA